Special NO.1 Summermusic 上田らい

今回の子ども定期演奏会で前奏に残った演奏はなくさんありましたんその一つ一つを、これからしょうかいしましょう！

まず、今年のテーマ曲、安田龍人さんの「王国の数学」で麻生智平さんの「こどもたち」は、毎回ワクワクする曲です。今回も会場のふんい気を楽しくしてくれました。

次に、メンデルスゾーンの付随音楽の感想をしょうかいします！この曲の特ちょうは流れるようなきれいな音やはじけるような楽しい旋律があり、とてもドキドキしました。オーケストラで合わせこその、美しい曲だなと感じます！

ピアノラの「エノスアイレスの夏」では神尾真由子さんのバイオリンが登場しました。とちゅうで、神尾さんのバイオリンの弓が切れていたことに気づきましたが、本人は変わらず演奏していたのですごいなと思いました。そして、力強いタンゴにとても感動しました。なぜなら、とても速いテンポでも表情がついていたからです。私もピアノをれんしますが、速いテンポで強弱をつけるのはとてもむずかしいことです。

次に、ヴィヴァルディの四季より「夏第三楽章」では、まず一番に思ったことがおどろき」でした。一見、夏とは思えないような旋律たちだからです。秋が冬かというような感じでした。けれども、夏の嵐という作曲家さんの少し変わった見方がおもしろかったです。また、指揮者さんがピアノのような楽器をひきながら指揮をしていたことにもびっくりしました。調べてみた所、チェンバロという楽器をひきながら指揮をすること、弾き振りをしていたことがわかりました。私なら指揮をしてチェンバロをひくなんて、うでが六本あってもたりないな！と思いました。

その次に、デュカスの「魔法使いの弟子」では、私自身が弟子になったような気分になりました。なぜなら、みなさんごぞんじのディズニーのミッキーマウスが登場する映画を見たことがあるからです。また、今回は絵付きだったので、場面場面がはっきりとかび上がったことも理由の一つです。この音楽は、木管楽器の低い音が大地よさを生みだしてくれました。また、独特な表現だったのでとてもおもしろかったです。

フロクラムの最後、J・シュトラウスⅡ世の「雷鳴と稲妻」で、まず一番にこのタイトルを見てイメージしたのは暗い色の入道雲かみなりを落とす、おそろしい風景でした。ですが、最初の旋律を聞いたとたん考えがきとび、さっきまでとはうってかわってすぐに楽しい気持ちが雲のようにわき上がってきました。ピアノラが作曲した嵐と、J・シュトラウスⅡ世が作曲した嵐は、同じ嵐でもえども、全然ちがう作曲者の考えに音楽のおもしろさを感じました。

そしてなんといってもアンコールのラデッキー行進曲が楽しかったです！私は手拍子をすることで観客とオーケストラ全員の心がつながろのではないかと思います。

子ども定期演奏会はいつも、私たち楽しさというおくりものをとどけてくれます。これからも子ども定期演奏会で、クラシック音楽を身近に感じられるようになりたいです！

撮影：池上直哉
提供：サントリーホール